

# ほつかいどう NIE 通信

A cartoon illustration of a blue, rounded head with two small antennae-like ears. The head is looking down at a yellow book it is holding open with both hands. The book has the text '第 55 号' (Number 55) printed on its cover.

発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海

域たそか氣らといのご よ持んを年れのう 0年月ら合記

日本新聞協会が  
つしょに読もう！  
決まつた。昨年の  
立女池小4年の佐佐  
木智子さん。各部の3作品が最  
優秀賞に入つた。

## 第2回いっしょに読もう新聞コン

日本新聞協会が全国から募集した第2回「いっしょに読もう！新聞コンクール」の受賞作が決まった。昨年の倍近い応募の中から新潟市立女池小4年の佐藤丞（じょう）君ら、小中高各部の3作品が最優秀賞に選ばれた。道内からは立命館慶祥中3年の八十嶋映里さんが優秀賞に入った。

日本新聞協会が全国から募集した第2回「い

を取り上げた。

卷之三

になつたものの、父親が仕事

には、震災のドキュメント

## 最優秀賞は震災関連記事

八十嶋さん（立命館）に優秀賞

節電などの大きさに気づいた様子をまとめた。

の成功を祈る折り鶴をメツ  
セージと共にコーディネー  
ターに託した家族の悲痛な  
葛藤へやつとうへを読み、

点が寄せられた。優秀賞に決まった八十嶋さんは広島、長崎へ原爆投下機の乗員だった米兵を組父に持つ23歳の写真家が広島を訪れ、非核を決意する記事（8月6日、朝日新聞）

最優秀3作品は、うち2点が震災関連記事。女池小の佐藤君は「節電、暗い街に星輝く」(8月10日 読売新聞)を読んで、震災による停電で満天の星空を見上げた祖父の気持ちになつて内容も変わり、新聞用紙も写真も見違えるくらい、きれいになつた。初めは漢字も読めなかつた私が今ではほとんど読めるようになつた。ラジオしかな

田絹子（あやこ）さんが取り上げたのは「手術成功祈り家族全員で折り鶴15歳未満初の脳死移植」（4月24日、朝日新聞）の記事。少年を失う、断ちがたい思いを乗り越え、移植手術てきている。

乃（札幌市立平岡中央中2年）、山田麻矢（同）、小林春華（同）、齊藤早希（岩見沢市立明成中2年）、山本丈暁（立命館慶祥中3年）、佐藤望（同）、田辺涼二（旭川工業高1年）

**元旦の各紙購入 来年も**

中標津町立俵橋小校長 西館

事は切り抜いてノートに貼つた。スクラップの始まりだった。

こうした元旦の新聞購入は60歳の今年も続き、来年も続ける。50年間で新聞の

い時代に、大相撲を聴くのが唯一の楽しみだった。力士の名前を覚えるのも新聞だった。だから、難しい漢字を新聞で覚えた。力士の名前も時代とともに変わつ

た。今、私は新聞のスクラップをしていて、何冊かの大  
学ノートに、地域のこと、教育のこと、その年の大き  
な事柄を区分けして整理し

に新聞の良さを教えていた。最近、新聞を読まない若者が増えていると聞く。新聞が大好きな私にとって寂しい話である。

北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)でバックナンバーから閲覧できます





# 現場で読み解く 学習指導要領

5

さの・ひろみ 公立  
中高教諭を経て現職。  
教育出版中学校国語科  
教科書編集委員。『豊  
かな言語活動が拓く国  
語単元学習の創造VII』  
(共著、2010年、東洋  
館出版)。1963年釧路  
市生まれ。

「こんな自分になりたい」というテーマのもと、「マツプロ法」により連想を広げ、相手意識を持たせ、言語化させることで、言語化された文章は、実に「北海道新聞読者欄のテーマ」の一端で、最終的には投稿に至る。投稿原稿を選ぶ編集者の視点と実際に紙面に接する読者の目を意識し、言語化され、推敲がなされるわけである。

作成を通して、記事の概要を把握、読者という相手を意識し、的確かつ効果的な表現を考えさせるに至る。本実践は、旭川東高のみならず、前任校の静内農高でも取り組んだもので、多様な学習者に対応する意味でも刮目に値する。

当協議会主催のNIEセミナーは、第8回室蘭・胆振セミナーが2012年2月4日（土）、北海道新聞室蘭支社（室蘭市幸町5の6）で、第10回帯広・十勝セミナーが同月11日（土）、十勝毎日新聞社（帯広市東1南

## ワークシート集

日本新聞協会の初代NIEコーディネーターでNIEコンサルタントの妹尾彰さんが「新NIE実践ヒント・ワークシート集」を発刊した!!写真!!。

校読書調査などの基本データを示しながらNIEの教育的効果に触れた。「国語」「社会」「理科・家庭」などの教科別とテーマ別の事例も紹介している。

学習指導要領の改訂で小学校から教科書の新聞活用が本格化したのを機に旧著の「改訂版」を全面改訂。「理論」「準備」「実践」編として「生徒の学習到達度調査(ISA)」結果や学

お知らせ

8) でそれぞれ開かれる。  
いずれも午後1時半から  
で、無料。参加申し込みは

4月より小学校の学習指導要領が、来年度は中学校の学習指導要領が完全実施となり、2年後には高校が年次進行で実施される。

中央教育審議会答申（08年1月）によれば、学習指導要領の主要な改善点として小、中、高問わず、7項目が列挙されている。その最初、「二丁目一番地」が「言語活動の充実」である。「言語活動の充実」の視点から小、中学校において多くの優れた実践が発表されているが、高校における実践は管見の限りごくわずかである。ここに二つの実践研究を紹介し授業づくり、単元づくりを考察したい。

(いすれも「国語論集8」  
「11年3月、道教育大鉄路  
校国語科教育研究室」に所  
載)

## NIEを国語総合で実践して

大村先生は旭川東高教論。学習者の意欲を喚起する授業づくりは全国的にも高く評価されている。

見出しの表現を考えるなら、「メタ読解」「メタ表現」という視点から評価できるものである。

いずれの実践も「言語活動の充実」の一手段として新聞の多様な可能性を示唆しているといえるだろう。

道教大釧路校准教授

# 道立高教論の国語科実践 「読者」意識させ表現力向上

「言語活動の充実」が最初、「一丁目一番地」である。ここに二つの実践研究を紹介し授業づくり、單元づくりを考察したい。

増子先生は留萌高教諭。本通信に何度も取り上げられた経歴を持つ、優れた実践家である。

新聞の見出しという身近な題材を取り上げ、読解、鑑賞、表現の実践に取り組む。実際の見出しを提示して比較、読解させ、その機能・効果を確認させる。

さらに、記事に見出しを作成させ、その上で学習者に相互評価させる。相互評価を生かし、別記事の見出しを再度作らせる。見出し

編集後記

○…文部科学省が図書館への新聞配備を新たな「学校図書館図書整備5カ年計画」に盛り込み、総務省に地方財政措置を要望した。図書整備と併せて求めた新聞配備のための、初の予算措置。

○…背景に、図書館に新聞を置く学校の少なさがある。同省による学校図書館の昨年の調査で、新聞を置く小学校は16・9%、中学校は14・5%と低迷。新聞を活用した学習を行う環境が整っていないといわざるを得ない状況が続く。

〇…日本新聞協会とNIE  
学会による実証研究でも学  
校図書館に新聞を置く取り  
組みが必要と訴えている。  
授業でのワークシート活用  
など、新聞の新たな使い方  
を模索する先生も増えた。  
ごく普通に新聞を生かし、  
触れ合える校内の環境づく  
りを期待したい。 (大)